「2021 年に外科治療を施行された肺癌症例のデータベース研究：肺癌登録合同委員会第 11 次事業」のお知らせ

肺がんは肺に発生する悪性腫瘍で、喫煙や大気汚染がその発生に関与しています。肺がん患者数は増加傾向にあり、我が国では 2014 年には約 11 万 3 千人（男性 77,617 人、女性 36,933 人）が新たに診断されていると推定されています。一方、肺がんによる死亡者数も増加傾向にあり、2017 年には約 7 万 4 千人（男性 53,002 人、女性 21,118 人）に達しています。肺がんを確実に早く治療するには、早期発見と根治手術が最も確実な治療法とされており、全ての肺がん患者さんの約 50%が手術を受けています。肺がんの病状によっては、手術前に放射線療法や化学療法またはその組み合わせ治療を受けたり、手術後に化学療法や放射線療法を受けたりする場合もあります。そして手術を受けた約半数の患者さんは、手術時に見つからなかった場所のがんが手術後に発見される事があり、さらに治療を要する場合もあります。以上のように肺がんの手術治療を受ける患者さんは、病状や全身状態によって様々な経過をたどります。肺がんの治療成績は年々向上していますが、患者数は未だ増加傾向にあるため、今後さらに新しい検査、手術技術や薬物など、診断や治療方法の開発が必要です。我が国では 5 年ごとに肺がんの外科治療を受けた患者さんの情報を集め、治療状況を調査しています。今回、2021 年に手術を受けた患者さんの情報を集めて分析する研究が計画され当院も参加しています。

＜研究対象＞当院で 2021 年 1 月 1 日から 2021 年 12 月 31 日の期間に、当院で外科治療を受けられた肺癌患者さん

＜研究期間＞2029 年 12 月 31 日までを予定しています。

＜研究内容＞年齢や性別、診断名、手術日、手術時間、出血量、輸血量、病理診断、術後合併症、退院日、術後転記などをまず診療録より調べます。その後術前の検査結果、術前の薬物治療内容、再発の有無などを診療録より調べます。

＜主任研究者＞千葉大学大学院医学研究院呼吸器病態外科学　教授　吉野　一郎

研究で集めるデータには患者さんのお名前や住所など個人を特定する情報は含まれません。研究結果は，研究代表者に情報を提供します。また、学会や出版物として公表することがありますが、いかなる場合でも個人情報が漏れることはありません。プライバシーは守られます。 本研究は当院の倫理・臨床研究審査委員会で承認されています。

本研究の趣旨をご理解いただき本研究に参加をお願いします。もし参加を望まれない場合は研究から除外しますので担当医師にお申し出ください。研究が始まった後でも自由に参加を取りやめることができますのでその際も担当医師にお伝えください。ご協力いただけない場合でも、今後の診療に不利益はきたしません。また、ご質問がある場合も担当医師にお伝えください。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

2021 年 12 月 6 日

京都桂病院　呼吸器センター呼吸器外科　部長　青山　晃博